

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈中・35〉	いわき市立 勿来第二 中学校	
＜実施日＞	平成 28年 2月 12日 (金)		
＜実践教科等＞	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。		
① 理科	2 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他 ()
＜実践内容＞			
1 単元名	「科学技術と人間」 ※放射線教育・霧箱の観察		
2 指導計画	・・・・・・・・・・4時間		
(1) 放射線の飛跡を霧箱で観察、放射線マップ作成 (校舎平面図)	・・1時間		
(2) 放射線対策について (プレゼンテーション教材)	・・・・・・・・・・1時間		
(3) 放射線レポート作成 (インターネット検索)	・・・・・・・・・・2時間		
3 授業実践			
(1) 理科レポート用紙 (別紙) を活用し、教科書での調査やインターネット検索を通してレポート作成を実践し、放射線への理解や産業への利用、人体や作物への影響を調べ今後の生活について考えさせた。			
(2) レポートの内容			
① 放射線と放射能とは	② 放射線の単位	③ 自然放射線について	
④ 産業と関係や人体や作物への影響			
⑤ 今後の生活に必要なこと	⑥ 再生可能なエネルギー資源とは		
⑦ 調査して分かったことや感想			
(3) 共有方法	廊下への掲示により、各自調査したレポート内容の共有を図った。		
＜成果＞			
1 放射線マップの作成は、安全の再確認のため有効であった。			
2 個別調査を実施したため、生徒一人一人が自分の課題として受け止め、全員がレポートにまとめることができた。			
3 自然放射線や産業との関係、人体や作物の影響を調査することで、放射線へのマイナスイメージだけでなく、自然界の中に当たり前に存在する放射線や医療への活用等への理解が深まった。			
＜課題＞			
1 時数の確保が必要で、レポート作成や共有場面の時間が少なかった。			
2 簡易霧箱の準備にドライアイス、液体窒素等が必要であり、観察時間の確保も必要で、指導者が体験学習を避けがちである。ペリチエ素子霧箱の整備や観察・調査学習時間の確保が課題である。			
資料作成担当者職 (講師) 氏名 (上遠野純子)	学校電話番号 (64-7222)		

【資料作成上の注意】

- 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
- 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先: kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)